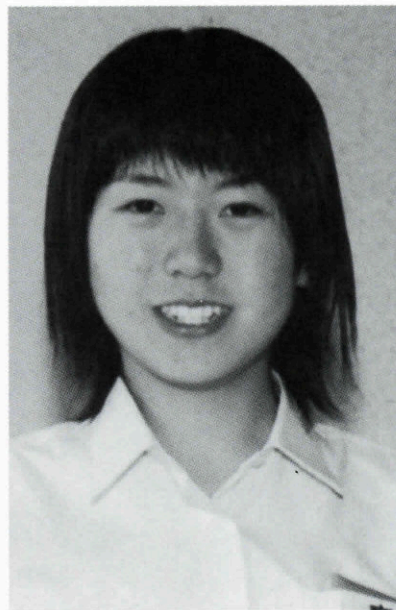


ながとじん 長門人

伝えたい、生徒であることの誇り

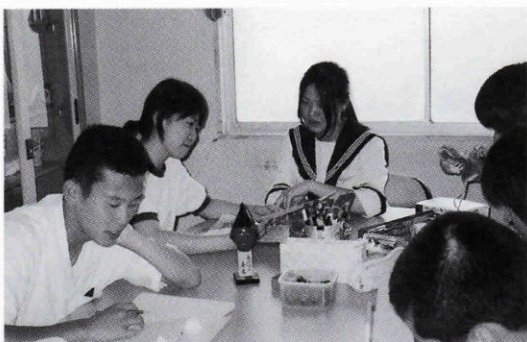


秋本千恵 さん
あきもと ちえ／昭和61年生
大津高等学校 2年／日置町

― 連絡帳 ―

先生や友達と話している時、ふと青い海を見て感動した時、「この大津高校で学ぶことができて良かったなあ」と何度思ったことでしょうか。それは当たり前のことなのかもしれませんが、実は一番ありがたいことではないかと思えます。そう思えるのは文武両道の下、一人ひとりが、些細なことでも価値あるものにしてきた歴史があるからです。そうして多くの先輩方によって創られてきた大津高校の伝統を私は誇りに思います。

今年、大津高校は創立100周年を迎えます。もしかするとまだ、伝統ある高校で学んでいることのあるかたさに気づいていない人がいるかもしれない。みんながこの大津高校で学べることに誇りを持ってるように、私の思いを伝えていき



生徒会執行部での話し合いの様子



末永洋之 さん
すえなが ひろゆき／昭和47年生
千葉市在住／本町区出身／千葉県庁勤務

故郷からいただいたもの

― ふるさとながと・こんにちは ―

見えぬけれどもあるんだよ
見えぬものでもあるんだよ
ご存知みずゞさんの「星とたんぽぽ」という詩の一節です。

長門を離れて10年以上になりましたが、最近では激動の時代といわれ、世の中のあらゆるものがこれまでにないようなスピードで変化しています。仕事の関係でそれに振り回されることが多いのですが、そうした変化にはかり目を奪われるのではなく、その後ろにある「見えないもの」をしっかりと見据えて変化に対応していくことが大事なのだ、本来の意味とは違うのかもしれないが、ふるさとのみずゞさんの詩から教えていただいています。

晴れた日に海沿いを走り、波の音と潮の香りに接して思い出すのは、いつも、長門の青い空と海、波に洗われる断崖や洞門、そして魚市場の風景です。でもそれに思いを寄せるだけではなく、ふるさとからいただいた「見えないもの」―長門の皆さんが大切にされるみずゞさんの心を持ち続け、それを伝えていくことが、自分を育ててくれたふるさとへのご恩返しになるのかなと思っています。



中学校時代（体育祭にて）